

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第七話

「ホタルの自然誌」(要約文)

夏の風物詩として知られるホタル。かつて町内のあちらこちらの湿地や沼に見られたと聞きます。しかし、今日ではほとんどその姿を見かけなくなりました。

日本に生息するホタルは33種2亜種であり、道内にはヘイケボタル(ホタル亜科)、カタアカホタルモドキ(ホタルモドキ亜科)、オバボタル(オバボタル亜科)が知られています。ここで記述する種類は一般に知られている発光するヘイケボタルについて述べることにします。

○**発生時期**：気候によって多少の差がありますが7月上旬から8月中旬頃といえます。

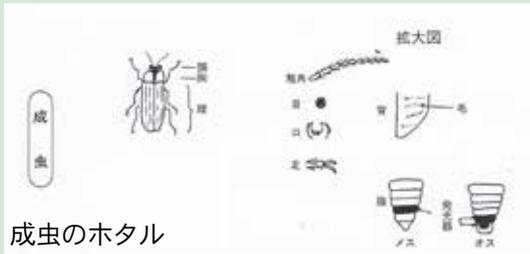
○**生息場所**：主として湿地、水田、小川(川幅1〜2メートル前後)などに見られます。生息数は数匹から数十匹の場合があり、環境によって大きな差を生じています。かつては、新冠町内全域で見られました。

○**ホタルの発光**：ホタルが発光するのは夜間だけで、日没の午後7時30分頃から翌日の午前3時頃までです。昼の間は草の根元にかくれており、夜になると葉の上に登ってきます。発光する理由は、オスとメスの配偶行動のコミュニケーションではないかと言われています。

○**ホタルの寿命**：野外での観察では不明ですが、飼育によると成虫の段階は約2週間、幼虫の段階は1〜2年と言えます。

なぜホタルが見られなくなってきたのでしょうか。一般には農薬が原因であると言われます。その他、河川改修などによる護岸工事のため環境が変化していったことも大きな要因とされています。さらに水田内では、農業機械による土壌の圧迫なども考えられるように思われます。このような中でどのように保護していったらよいのかという問題があります。現在できることは、生息している場所をそのままの状態に保護していくこと。また、人為的にホタルの幼虫を放流していくこと、環境を作つてやることが大切だと思います。

***追記**：昭和60年代、郷土資料館では、新冠町内どこにでもホタルが飛んでいた頃を復活させようと、「ホタルの里づくり」をしていたことがありますが、一時、観覧会が開けるほど繁殖しましたが、その後は減少したようです。しかし実は、現在でも新冠町内でホタルを見かけることがあります。ホタルを発見した時はつかまえず、そつとしておきましょう。



成虫のホタル

「冬道での交通事故防止」

- 天候・路面状況に応じた運転を
- スピードダウンと慎重な運転を
- 「急」のつく運転操作は危険
- シートベルトの全席着用

静内警察署

火災・救急出動状況		() かつこ内は前年同期	
区分	火災件数	救急件数	
11月	0件 (0件)	23件 (21件)	
30年1~11月	1件 (3件)	282件 (243件)	
交通事故発生状況		() かつこ内は前年同期	
区分	発生件数	死者	傷者
11月	0件 (0件)	0人 (0人)	0人 (0人)
30年1~11月	4件 (3件)	0人 (0人)	5人 (4人)

人のうごき

人口	5,571人	(前月比 - 6人)
男	2,736人	(前月比 0人)
女	2,835人	(前月比 - 6人)
世帯	2,762世帯	(前月比 + 8世帯)

(平成30年11月末現在)